



目次

セミナー先の紹介	5
英語クラスについて	7
IT クラス　－Mark はとってもフレンドリー－	8
企業訪問　Red Engine	9
企業訪問　－RKI－	10
思い出のページ	11
一生ものの経験と思い出	11
留学報告書	13
留学報告について	13
貴重な経験	14
夏期セミナー・カナダでの経験	16
留学報告　－カナダという国で得たこと－	19
語学留学の経験	20
留学報告書	21
カナダでくじけたこと	22
Faculty Social　－ダンスは国境を越えました－	23
Canadian Rockies Tour	24
寮と寮生活について	26
Home stay	27
Home stay について	27
Home stay について	28
Home Stay　Kristian & Emy Gordon 家	29
フェアウェルディナー	32
飛行機について　－乗り換えには気をつけて！－	33
イベント一覧	34
Festival	34
Outdoor Activity	34
Golf	36
Conversation Club	36
ペイントボール	37
エドモントンについてとちょっとしたアドバイス	38

Member

古泉 里沙

Teacher

小宮山智志准教授

先生は普段落着きがありません。しかし、行きの空港で少しトラブったときとても活躍してくださいました。先生がいなかったら私たちは空港で一夜をすごすハメになっていたかもしれません。そんな意外なところで頼りになる、おちゃめでかわいい先生（笑）

赤木敏子教授

先生は、授業での印象が強いんですが授業外だと全く別人（笑）
留学の後半担当。先生のおかげで無事日本に帰国できましたー♪
優しくとってもかわいい先生。

Student

荒川 章子

お嬢はとてもマイペース。とても積極的で予想外の行動を起こすことに関して天才的。
荷物の多さは誰にも負けない（笑）

池 優佳里

ゆーちゃんは責任感が強く、料理も自分から進んでやってくれる頼れる存在。
頑張り屋さん（笑）

井田 知織

知織ねーさんは姉御的存在。
スポーツ万能だし、何をやってもかっこいいんだっ！！（笑）

古泉 里沙

古泉は最っ強の気分屋！感情表現豊かでよくみんなの足を引っ張る（笑）

近藤 悠実

ゆみさんはしっかり者！たまに暴走するのがチャームポイント♪（笑）

谷川 未歩子

みほこさんはちょっと変わり者のお姉さん。マッサージがすごい得意。
めっさ癒される～（笑）

富山 貴旭

とみさん。笑顔が素敵。単独行動多し。何気に面白い要素満載（笑）

野村 翔太郎

のむさんはマイペースな癒し系。英語に強い。
どこにいてもすぐ見つけれられる（笑）

渡辺 貴人

みんなのまとめ役。みんなを引っ張ってくリーダーであり、ムードメーカー的存在。
常に前向きで楽しい人。たまに意味不明な発言が飛び出す（笑）

セミナー先の紹介

渡辺 貴人

アルバータ大学について

アルバータ大学は、アルバータ州の州都エドモントンにある大学です。とても大きく、緑に囲まれたこの大学には3万人以上の学生が在籍しています。外国人への語学教育に力を入れていて、大学構内の Extension Center では語学プログラムが実地されています。

リスターホールについて

私たちはカナダに着いてから2週間、アルバータ大学の構内にあるリスターホールという寮で生活していました。リスターホールには食堂や自販機・公衆電話があり、自由に利用することが出来ます。

Humanities Center について

私たちが留学期間中に英語の講義を受けていた場所で寮から少し離れていました。教室内は会議室のような机が並べられ、先生も生徒と同じように机に向かい、身近にある黒板に講義の説明などを書いて講義が進められました。建物の中には電子レンジや自販機などがあり、自由に利用することが出来ました。

アルバータ大学でお世話になったスタッフ

Mimi Hui さん

Executive Director で今回の私たちの夏期セミナーやたくさんの大学の留学を企画・実地してくださいました。

Sebastian Panciuk さん

Mimi のサポートをし、この夏期セミナーで長距離移動するときに車で迎えに来てくれたり、私たちが困っている時にサポートしてくださいました。

Mark Bennell 先生

ITクラスで講師を務めてくださった現地の一般企業社員。親切で丁寧な講義で英語だったけどちゃんと理解することが出来ました。

マット先生

私たちの夏期セミナーで英語の講義をしてくれた先生。フレンドリーで常に明るい雰囲気です。講義を進めてくれた。

マークさん

私たちの夏期セミナーで直接に指示をしてくれたり、ちょっとした豆知識などを教えてくれたお兄さん。

メグルさん

中国人と日本人のハーフでトリリンガル。アルバータ大学2年生の頼れる陽気なお姉さん。

2008年度 海外夏期セミナー 日程表

野村 翔太郎

曜日	Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
日付	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日
午前			英語クラス	英語クラス	英語クラス		
午後		お祭り : Scavenger Hunt			Red Engine		
		Heritage Day			へ企業訪問		Canadian Rockies Trip
夜	アルバータ 大学到着 : 説明・夕食 会			Faculty Social			
日付	8月12日	8月13日	8月14日	8月15日	8月16日	8月17日	8月18日
午前		英語クラス	英語クラス	英語クラス	英語クラス	英語クラス	
午後	Canadian Rockies Trip	Dev Studios へ企業訪問	Outdoor Activity	West Edmonton Mall	Conversation Club	Conversation Club	
夜							
日付	8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日	8月24日	8月25日
午前	Home stay	英語クラス	英語クラス	英語クラス	英語クラス	英語クラス	
午後		Fort Edmonton	Conversation Club	Golf	Conversation Club	Conversation Club	
夜	Home stay	Home stay	Home stay	Home stay	Home stay	Home stay	Home stay
日付	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日
午前		I.T.Class	I.T.Class	I.T.Class	I.T.Class	I.T.Class	
午後		Conversation Club	アルバータ大学 部門(企業訪問)	IT Conversation Club	Conversation Club	Conversation Club	
夜							
日付	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日
午前		Labor Day	英語クラス	英語クラス	英語クラス	最終試験	帰国
午後		Conversation Club	Conversation Club	企業訪問	Conversation Club	Farewell Party	
夜	Home stay	Home stay	Home stay	Home stay	Home stay	Home stay	

英語クラスについて

井田 知織

私たちの英語クラスは新潟国際情報大学の学生と先生一人の10人でいつも8時から12時まででほとんど毎日行われました。先生の名前はマットといい、若くて白人でちょっとマッチョで顔もかっこ良く、秘密主義者で頑固者でとにかくおもしろい先生でした。

マットは世界の色々な国に仕事や旅行で行くらしく、日本にも行ったことがあると言っていました。日本語もわかるみたいで私達が日本語で会話をしていると、隣でいきなり笑ったり会話に入ってきたりしてすぐに仲良くなることができました。

マットの英語の授業は始めから最後まで英語だけで行われ、始めは英語の苦手な私にはとても辛い時間を感じました。しかし授業内容は日本の英語の授業とは全く違い文法を覚えるというのではなく普段よく使うような会話や日本人がよく間違えやすい発音など、先生が一方的に話す授業ではなく、みんなで会話をしながら授業を作っていくという形でした。授業中は飲み物も食べ物も食べてよくてすごく自由で、マットもガムを噛みながら授業をされていてすごくラフな感じでした。

教科書もカラーでとてもわかりやすく、プリントも毎回用意してくれて、楽しく英語使うことでいつの間にか英語の長文を見てもなんの抵抗もなく読むことができるようになっていました。私が特に印象に残っている授業は「slang」、日本語でいうと通用語・流行語のようなもので、それを大学にいる人に聞きに行くという授業でした。日本でもそんなに知らない人に話しかけることがないのに違う国の知らない人に話しかけるというのは私にとってとても抵抗があり、始めは話しかけるのをためらっていると相手のほうから話しかけてくれました。カナダの人はすごく優しい人ばかりでした。

他にも大きい白紙の紙を渡されてそれに「自分の夢の家」という題で好きなように絵を書いて、それを一人一人発表しみんなでその家について質問し合うというユニークな授業もありました。初めの自己紹介をしたときは文法や発音が間違っていないか不安で原稿を書かないと発表なんてできなかった私も、授業を受けていくうちにいつの間にか原稿もないのに発表ができていたりしている自分に驚くこともありました。マットの授業は私達が退屈しないようにすごく色々考えてくれて、休み時間もみんなにたくさん会話をしてくれて、英語を使って話すということに抵抗がなくなることができました。毎日のように宿題がでて、始めは3時間ぐらいかかっていたものが慣れてくると2週間後には1時間以内に終わらせることができるようになっていて、英語に毎日触れることで英語に対する恐怖心がいつの間にかなくなっていました。

日本にいたら英語は一日に授業のほんの数時間程度しか使わないので抵抗を持つのであって、もっと普通の生活に英語に触れる時間を多くすることでもっと英語を好きになれることにも気づきました。

ある休み時間に私がマットに「日本人にどんな印象を持っていますか」と聞くと「unfriendly」と言われたときはとてもショックで、そんなマットが最後の日に「君たちと出会って日本人の印象がすごくいいものになった」と言ってくれてすごくうれしかったのを覚えています。始めは苦痛でしかなかった英語の授業がいつの間にか楽しくなっていてマットと出会うことができ英語を教えてもらうことができ本当によかったと思います。

私たちの IT クラスが始まったのは 5 週ある内の第 4 週目でした。この授業が行われた場所は Extension Center で、ここはスーパーに買い物に行く時によく通る道にあり、私たちが泊まっていた寮、Lister Hall からは約 20 分位のところにあります。講師である Mark は男性です。

授業の進み方は『ドリームウィーバー』という web ページ作成ソフトを用いて、Mark が説明しながら HTML タグを打っていくのを、前のスライドを見ながら同じようにタグを打っていくという形式でした。Mark のタイプ速度はドリームウィーバーの短縮機能などを駆使しているため恐ろしく速いですが、打ち込むタグはあらかじめ配布されたプリントに書いてあるので大丈夫です。また、1 つタグを打つごとに「質問は？」と聞いてくるので、安心です。このソフトが入っているのは Extension Center だけだったので、いつも私たちが日記を書く図書館では web ページを作ることが出来なかったのが残念です。また、朝早く行っても鍵が開いていないことがあり、Mark が来るのまで廊下で待機ということもありました。

授業内容は HTML、CSS、JAVA Script について 5 日間で行うといった内容で、1 日目の HTML は国際情報大学の情報処理演習 F (初級) で行う HTML 演習の中身を把握出来ていれば難なく理解できます。主なタグは、テーブルタグ、リンクタグ、リストタグ、フォントタグといった基礎的なタグなので、日本で簡単な web ページを作ってみると Mark が言っている英語が聞き取れなくても、理解がしやすいと思います。しかしながら、2 日目の CSS は大学での HTML 講習とは違い、情報処理演習 F (初級) のみの知識では理解が難しい内容となっていますが、Mark が説明しながらタグの構成を教えてくれるので、習うより慣れろといった感じです。ここでは外部 CSS を読み込む方法で CSS を web ページに反映させる方法で習いました。反映させてみた CSS タグは『背景を変える』、『文字の書式や色を変える』タグなどです。3 日目の JAVA Script は、JAVA Script で何をしたいか、ということ聞かれます。私たちは『マウスをイメージ上に持っていくと別のイメージに変わる』ということや、計算機の作成など JAVA Script で行いました。4、5 日目は JAVA Script と課題作成を行いました。いずれのタグも Mark が参考資料としてタグ一覧表を配布してくれるので、見方さえわかれば、結構役に立ちます。

IT クラスでの課題は、個人で作りたい web ページのイメージを 3 ページ以上描き、それもとに授業で習ったことを用いて web ページを 3 ページ以上作り上げることです。出来たものは、Mark のフォルダにデータを保存・提出でした。Mark は私たちが作っていた web ページを 1 人ずつ回って、それぞれにコメントをくれ、とてもフレンドリーでした。

日本では、自分で web ページを 1 回は必ず作ってみると、本当にこの授業が少し楽になります。また、どんな web ページを作りたいかなどを考えてから留学に行くといいと思います。

8月9日。まだエドモントンに来て3, 4日だというのに企業訪問がありました。夏期セミナーのプログラムのひとつで、情報システムの最先端に触れることを目的にIT関連の企業を訪問します。もちろん英語による会話になるわけですが、それを考えるだけで行く前から緊張していました。午後2時に引率のMarkと待ち合わせをして、地下鉄の駅へ。大学の敷地内には地下鉄の入り口、市街地・郊外につながるバス停がたくさんあります。電車に乗って、そのままビジネス街の真ん中に到着。Markが少し迷って会社への道を探しに行っている間、彼を待って残った私達スーツの一团は少し目立っていました。ビジネス街の中心だというのに、日本とは違ってスーツ姿の人がかなり少ないのです。あくまでスーツはフォーマルな服という認識なのかもしれません。ビジネス街の中心とは言っても、日本とは全く違う光景に驚いていました。

そしてこの日訪問させていただいたのはレッドエンジン社。応対してくださった方は中東系の男性で、オフィスには白人やアジア系の方も働いていました。カナダは他民族国家だと改めて認識。会社は男性8人女性4人が働く少人数でありながらMattによると、とてもポピュラーな企業だそうです。企業や大学からの依頼を受けて、Webの

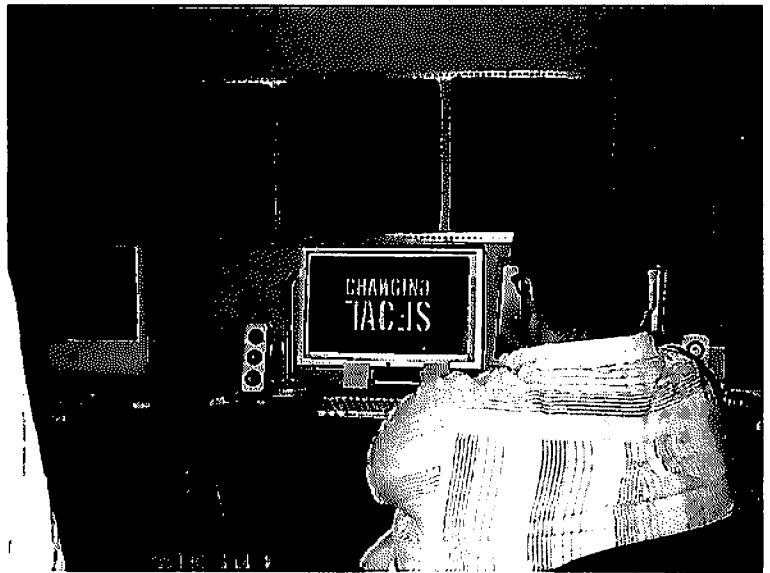


コンテンツ・アプリケーションを製作、主にプログラミングを行なっているそうです。もちろん英語でのインタビューだったので、正直良く聴き取れませんでした。かろうじて、Red Engine社がiPhoneの製作に関わった話のあたりは理解できました。先生が前に言っていた通り、IT関連の仕事をしている人は話す速さが本当に早いと感じました。ただでさえカナダにきて数日しかたっていないのに…できればもっと後半の時期に来たかったなと思いました。そして各自の質問をすることになり、とても緊張しました。私は無難に「1つの企画にどのくらい時間がかかりますか?」「日本のウェブページは観たことがありますか?」と質問。最初の質問は『従業員一人に給料をいくら払っていますか?』と受け取られたようで、お金の話になってしまって完全な失敗でした。でもどうしてそんなことになってしまったのかも分からない自分の英語力のつたなさが悔しいです。ちなみに日本のウェブページは観たことがないとのこと。最後に記念写真を撮って大学へ戻りました。

最終日間近に訪問した最後の企業訪問。この企業はライアンがバイトで時々手伝っている会社だった。この企業はFLASHを用いたCM製作も行っていて、従業員は30人未満で小さな会社だが、撮影場所、作業スペースといった場所が十分に確保されている企業である。

この企業に着くと、まず小さなミーティングルームのような部屋に通された。そこで、スライドを見ながら、この企業が何を重要視しているかを説明してもらったが私にはよくわからなかった。

スライドでの説明では、数学的に情報技術プログラミングを作成する企業で、解決方法のわからないものはみんなで意見を出し合って、解決しようと試みるが、それは非常に難しいものだと考えている。だから、そういった不確定なものを判断するために数学があり、コンピュータプログラムは必要である。方法としては高度な数学を用いて行う。例えば、企業のマーケティング戦略の中で最たるものは、TVコマーシャルである広告だという。カナダのTVのチャンネルがたくさんある理由は、視聴者がTVのチャンネルを高速に変えていくため、目につくCMを作る必要がある。これを数学的に観察し、過去の統計と合わせて、コンピュータ上で模擬実験を行い、反応を見るといった具合だ。次に企業にとってコストがかかるものは生産性、プライバシー、セキュリティだという。特にセキュリティの問題は深刻で、クラッカーや、内部の人によってもたらされることもあるらしい。スライドで説明が終わると、実際に作業している現場を見せてもらった。部屋というものよりも、仕切りを作って区切っている所が多く、一人分の作業スペースは広々としていた。



また、フィギュアが飾ってある場所では、FLASHで作成した、CMを見せてもらうことができた。グラフィック系なCMで何のCMかはよくわからなかったが、とてもきれいだった。最後の企業訪問で訪れた企業はとてもアットホームな優しい雰囲気のある企業だと思った。

思い出のページ

一生ものの経験と思い出

荒川 章子

最初にこのカナダ留学の話聞いた時、私はぜひ行ってみたいと思いましたが、それと同時にあれこれと不安にも思いました。特に不安だったことは、私の今の語学力で留学に行っても大丈夫だろうか、費用はどれくらいかかるのだろうかといったことです。他の生活面などに関してはそれほど心配していませんでした。多少の不便や我慢などはあるだろうけれど、何とかやっていけるだろうと思っていました。

そしてそのうちに、留学に行けるなんて一生に一度の機会だろう、行くとしたらこの大学生のうちだけだろうと思い、これはなんとしても行くべきだと思うようになりました。英語力をつけたい、海外に行ってみたい、異文化に触れてみたい、海外で友達を作りたい、英語力をつけて大人になったらいろいろな国を旅してみたい、など様々なことを思いました。また、私はどちらかというと好奇心が強く、何でも自分で体験してみたいといった性分なので、行かないで後悔するより行って帰ってきて後悔したほうがまだましだろうと思いました。

なので、語学力に関しては、大学の英語の授業で勉強したり、あとは自主的に少し日常英会話や単語などを勉強したりといったことをしました。費用に関しては、できるだけ自分の力で何とかしようと思い、ある程度アルバイトをして貯金したりしました。

実際に留学を終えて振り返ってみて、確かに多少の不便や我慢などはありませんでしたが、行く前に思っていた不安などはどれもなんとかなったように思います。なので、今留学を少しでも考えている人には、あれこれ不安に思っただけで諦めてしまわずに、ぜひ思い切って行ってみることをお勧めしたいと思います。もし今の私が留学に行く前の迷っている時点に戻ったとしたら、即決すると思います。今では本当に留学に行けてよかったと実感しています。行かないで後悔することはあっても、行って帰ってきて後悔することはまずないと思います。きっと一生もののよい経験、思い出になるでしょう。

また、今回カナダ留学を通してお互い支えあったメンバーの皆さん。このメンバーで留学して本当によかったと思います。感謝です。そして、今回の留学を支えてくださった大学、先生方、友人、両親、本当にありがとうございました。

ここでカナダ留学の際の、日常生活の何気ない場面の中からの小話。

○カナダの人は甘党が多い？

大学周辺や、HUB MALL, WEM などには様々なカフェや、お菓子のお店があります。ある日、私たちがあるレストランに行った時のことです。デザートにチョコレートムースができました。それを口に運んだ瞬間、それはそれは甘い味が口の中に広がりました。またある日、私たちが HUB MALL のカフェの前を通った時のことです。店にいた客が、これでもかというくらいにコーヒーの中に砂糖を振り入れていました。私は少しぎょっとしました。この日に限らず、カフェの前を通るとこういった光景を何度も目にしました。また、ホームステイ先で朝にコーヒーを Homestay mother が入れてくれた時のことです。Mother は「砂糖とミルクどうする？」と私たちに聞きました。私と同じホームステイ先の子が「ブラックがいい」と応えると、Mother はとても驚いて信じられないといったよ

うな反応をしていました。こちらではコーヒーをブラックで飲むのは珍しいのかもしれませんが。ある日の Conversation club の時に、カナダの人は甘党が多いのか、ということが話題になりました。大学のガイドの学生の Mark によると、確かにそうかもしれないということでした。カナダでは糖尿病を患っている人の割合が高いそうです。

○電車の中で

町を歩いていても思うことなのですが、特に通学するときに電車に乗っていて気がついたことがあります。こちらでは本当に様々な人種の人々が生活していて電車に乗って周囲を見渡してみても様々な人種の人が見受けられます。新潟では目にすることのない光景だと思います。自分はいま本当に海外に来ているのだな、異文化だなと毎朝感じていました。

○スーパーマーケットで

留学中、特に寮で生活している間は、何度かスーパーに行きました。スーパーで買い物をしていると、あることに気がつきました。それは、食料品のサイズがとにかく日本のものと比べて Big だということです。ミルクが3〜4ℓくらい入った大きなボトルで売られていたり、アイスクリームがバケツくらいのサイズで売られていたりなど、いろいろなものが大容量で売られていました。ホームステイが始まって納得しました。こちらの家庭の冷蔵庫は大容量な傾向にあるようです。おまけに私がホームステイしたお宅では地下に大きな冷凍庫もありました。

○お弁当について

カナダのお母さんが持たせてくれるお弁当は、日本のお母さんが作ってくれるようなお弁当箱に入っていていろいろなおかずが入っているようなものとは、当たり前かもしれませんがだいぶ違います。クラスの仲間の Homestay mother が持たせてくれたお弁当と見比べてみても大体似たような感じです。みんなして似たり寄ったりのものをランチで食べているので少し笑えました。

まず、メインはベグルやブレッドにマヨネーズのようなものが塗ってあり、それにハムやチーズやレタスが挟まっているといったものです。

そのほかに、お弁当としてよく持たせてくれるものは、200ml の紙パックに入ったフルーツジュース、デザートとしてフルーツ丸ごと 1 個、それからおやつとしてシリアルを砂糖で固めたようなスナックバーをよく持たせてくれます。それからデザートのフルーツはよくリンゴ、バナナ、モモあたりをよく持たせてくれました。こちらのリンゴは日本の一般的なリンゴの半分くらいのサイズで、まるでままごとのリンゴみたいでかわいいです。お弁当用サイズといった感じです。それらの果物を丸ごと 1 個そのまま持たせてくれます。日本の場合一般的に、皮を剥いて、一口サイズに切って、小さなタッパーに入れてよく持たせてくれたりするでしょう。しかしこちらの場合そのまま持たせてくれるので、皮がついたまま丸かじりします。モモが入っていた時は少しどうやって食べようか困りました。プラムのようなものならば日本でも皮がついたまま食べるのですが、白桃のような皮のモモは日本では一般的には皮をむいて食べるので、でも結局皮ごと食べました。

以上のことは留学中に経験したことのほんの一部に過ぎません。カナダ留学に興味がある人で事前に知っておきたいことや相談などがあれば、ぜひ留学に行った先輩などに聞いてみてください。

私たちはカナダ行っているいろんなことを体験、学ぶことができました。言葉の違いなど行く前はとても不安でしたがカナダに実際に行って人の親切さに何度も助けられました。始めのころは英語を聞き取ることに夢中で理解することが大変でした。しかし毎日のように英語を聞いていたら完全ではありませんが言っていることが理解できるようになりました。

英語を聞く機会は多くありましたが話すことは自分から話をしないとなかなか機会がありません。そのせいか英語の授業では大学のキャンパス内にいる人に質問をするという課題が何回かだされました。始めは抵抗がありましたが何回もやっているうちに抵抗もなくなりたのしくできました。ちゃんと会話や内容を理解できるようになったのはコンバセーションクラブの力が大きかったと思います。勉強という感じではなくたわいもない話をアルバータ大学の人たちとできとても楽しみながら英語を学び、カナダの文化を学びました。

Home stay では始めは戸惑いながら生活していましたが、とても暖かい家族に助けられながら快適な生活ができました。Home stay 先の家族に行った事のないところに連れて行ってもらったり、お弁当や食事を用意してもらったりといろんなことをしてもらいお世話になりました。マザーに宿題を手伝ってもらったりと会話が大変だったときもありましたがよい経験になりました。

また、カナダは自然がとても多いところです。馬を実際に乗ったり、自然の中で Golf を行ったり自然を体感することができました。また、大学内でリスやウサギがいたりパンフの町を歩いていたら鹿がいたり、日本ではなかなか体験できないほど、日常的に近くで動物たちを見ることができました。

自然で1番印象に残っていることは、世界的に有名な Canadian Rockies です。世界遺産とされているロッキーはどここの場所で見てもとても存在感がありました。Rockies Trip ではカヌーに乗ったり滝に行ってみたりとカナダの自然を体感することができました。

企業訪問では、英語の説明ということで始めは戸惑いでしたが自分たちからいろいろな質問をすることができ日本との違いがそれを通じて感じるすることができました。始めはとてもみんな緊張していたと思いますが、慣れることによっていろんなことに興味を持つようになりました。

カナダという国は自然が多くとても人々が暖かい人たちです。私たちは多くのことを学ぶことができましたし、いろんな人に出会うことができました。この経験はこれからの生活で大きな影響を与えてくれたと思います。

留学報告について

井田知織

今回このカナダへの海外セミナーに参加してすごくたくさんのことを体験し、学ぶことができました。私は中学生の頃から英語がとても苦手でその英語を少しでも克服しようと思いこの海外セミナーに参加することを決めました。

成田空港を出発し、シアトル空港に着きそこからエドモントン行きの飛行機に乗り換える予定が乗り遅れてしまいシアトル空港で5時間ぐらい足止めされ、アルバータ大学に着いたのは夜中になっていました。こんなトラブルからカナダの生活が幕を開け、私のカナダ生活がスタートしました。

次の日から英語の授業が始まりました。どんな授業をするのか、どんな先生なのか不安と期待で教室で待っていると、マウンテングバイクを押しながら白人の男性がやってきました。その人が私たちの英語の先生のマツトでした。英語の授業は始めから最後まで英語で行われ、宿題もほとんど毎日のように出されました。マツトの授業は日本の英語の授業とは全然違ってみんなで話し合いながら進めていく授業でした。他にも大学内の建物を見に行ったり、カナダ人に質問しに行ったりととてもユニークなものでした。

英語の授業が終わってからは Conversation club があり、アルバータ大学の生徒と一緒にカフェなどに行って話したり、買い物に行ったりしました。みんなすごくやさしい人達ですぐに仲良くなることができました。

私は始めの一週間ぐらいは、英語も速くて聞き取ることができないし、宿題を終わらせるのに毎日夜中まで勉強し、朝も早いので毎日のように「日本に帰りたい」と思っていました。しかしそんな時、同じ寮の階にいた他の大学の日本人の友達に「せっかくカナダに来たのだからもっと楽しもうよ」と言われ、それからはずごく積極的にカナダ人と話すようになり、カナダの生活が楽しくなりました。そしてホームステイが始まり、私はシンシアというママの家にお世話になることになりました。

シンシアはとても料理を作るのが大好きで夕飯は娘のサラと私の3人でよく作りました。シンシアはインスタント食材が嫌いであつても手の込んだ料理を作ってくれました。買い物やドライブに行くのが大好きで休みの日は色んなところに連れて行ってもらいました。

ロッキーツアーにも行くことができ、大自然を間近で見ることができ、とても感動しました。アルバータ大学の敷地にもたくさんの野生のリスやウサギがいてとても自然との共存がうまくできている国だと思いました。

カナダの人はみんな優しくフレンドリーな人ばかりで、色んな国の人々も暮らしていてとても国際的な国だという印象を持ちました。食べ物は全体的に味が濃く、アルバータ州は海に接してなかったこともあり肉中心の食事でした。このカナダでは文化の違いに毎日驚かされ、本当に内容の濃いすばらしい思い出を作ることができました。

そしてもっと英語力をつけて色んな世界の国に行ってみたいと思うようになりました。あんなに英語が大嫌いだった自分がたったの5週間でこんなにも変われるとは思っていませんでした。英語に対してだけでなく、これからの人生の中で、先入観を持たず色んな人々と積極的に関わっていききたいと思いました。

貴重な経験

古泉 里沙

今までに海外は2回ほど行ったことがありました。けどそれは旅行で、留学という形で行ったのは今回が初めてでした。行くまでの不安は相当なものでした。英語力はもちろん、

勉強ができない私は、カナダでしっかりやっていけるのだろうか、授業についていけるのか、みんなの足手まといにならないだろうかそんなことばかり考えていました。

カナダでの生活が始まり、最初の授業・・・本当に緊張しました。まず、朝8時から授業というのがきつく感じました。そして、寮から教室までの15分最初は新鮮でよかったのに授業の回数を重ねるごとに憂鬱になっていきました。なぜかという留学前に考えていた通りになってしまったからです。私の英語力とみんなの英語力の差に初めの自信を無くしていきました。英語を聴き取れなければ理解することもできません。それでも、こんな留学という機会この先一生ない。無駄にしたくない！！という思いで必死に取り組みました。

私たちの担当の先生 MATT はとてもおもしろいユニークな先生でした。よく冗談を言ったり、ときに MATT は Monkey や Rabbit の物真似をして私たちを笑わせてくれました。授業は教科書やプリントを使い、グループワークで行われました。例え英文がおかしくても MATT は理解しようと最後まで発言を聞いてくれました。そのおかげで不安も、緊張も少しずつ消えていきました。グループワークでは、日本でいう、すごろくゲームのようなことをしたり、グループ対抗で競ったりと楽しい内容でした。ホームワークでは、自分の理想の家というテーマで大きな紙をもらい、それに自分で理想の家の絵を描き、発表するという内容のものがありません。私はヘンゼルとグレーテルのあのメルヘンなお菓子の家を書き発表しました。自分で考えて書いたのに、英語で説明するのが意外と難しく大変でした。みんなの発表を聞いていて、一緒に生活しているのに誰一人として理想がかぶることがなく、それぞれの個性を感じました。みんなの発表内容はどれも共感できるものばかりでした。

Conversation Club ではメグと MARK にすごくお世話になりました。メグは中国人と日本人のハーフで、日本語・英語・中国語の3ヶ国語がペラペラのアルバータ大学の現役生で、とてもかわいく、明るい女の子。MARK はカナダ出身のアルバータ大学現役生でした。Conversation Club は毎回カフェに行き2つのグループに分かれ、その時その時でテーマを変え、ドリンクやお菓子を食べながら会話をしました。難しかったり、意味のわからない英語はメグがこっそり日本語で通訳してくれることもありました。MARK は日本で流行っている言葉を連呼したり、物真似をしたり私たちを笑わせてくれました。カナダの人たちはとてもノリよく、私たちは常に笑いが絶えませんでした。

Home Stay では私はゆみさんと一緒にホストファミリーの家でした。私たちのホストファミリーはカナダ人の旦那さんクリスチャンと、フィリピン人の奥さんレミでした。すでにフィリピン人の留学生が1人いました。私たちの家でのルールは特になく、とても自由でした。私たちが帰宅すると「今日の授業はどうだった？」から始まり、「お腹すいてない？」夕食前にもかかわらず、「お菓子あるよ！いっぱいあるよ、食べなさい」といった感じでした。夕食時も楽しく会話しながらでした。私たちが一番びっくりしたことはどこの家にも必ず食糧庫があることです。中にはすごい数の食料のストックがありました。日本では考えられません。カナダという外国特有なのかなと思いました。夕食後は日本の話をしたりしました。Home Stay 中ホストファミリーに日本食のチラシ寿司とお好み焼きを作ってもらいました。結構好評でした。

休みの日には世界一大きなショッピングモール、West Edmonton Mall へ遊びに行きました。とにかくデカイ！！室内にスケートリンクやプール、遊園地まで入っていました。遊園地のジェットコースター…ヤバかったです。とにかくいろんな種類の店があつてここで何でもそろいました。チャイナタウンというところがあり、そこのスーパーに入って商品を見ていたら日本製のものがたくさん置いてあり、少し笑えました。1日中いてもたぶん回り切れないし、飽きないと思いました。

カナダに着いて初めのほうにロッキーツアーに行きました。夏なのに山には雪があり感動しました。みんなで写真を撮りまくりました。そして麓の観光地 Banff でたくさんお土産を買いました。Lake Louise では初のカヌーに乗りました。意外と漕げることにびっくり！センスを感じました。ホテルではバイキングで魚介類がとてもおいしかったです。世界遺産というだけあり本当にすごかったです。

留学に来なければできなかった体験をたくさんすることができ、カナダ留学に参加して本当に良かったです。英語力も始めから比べたら確実に上達したのを実感しています。一緒に生活していく中で仲間との友情も深まったと思います。この経験を無駄にせず、日本での生活に活かしていきたいと思います。

夏期セミナー・カナダでの経験

近藤 悠実

新潟駅から東京、船橋を乗り継いで成田へ到着。2007年8月5日、日本を離れるその日はとても暑かったのを覚えています。

大変だったのが移動時間の長さで入国審査でした。まずはシアトルへは日本から約16時間掛かります。とにかく平らなところで寝たくなってしまいました。いかに普段快適に過ごしているか気づきました。そして9.11事件以来アメリカの入国審査は厳しいものになりました。ベルトをはずして、シューズを脱いで。指紋採取と顔写真の撮影もありました。シアトルからエドモントンへは2時間ほどで着きました。とはいえ、ここまで来るのにこんな大変な思いをするなんて…。でも夜遅くまで私たちを待っていてくださった大学スタッフの皆さんには感謝でした。

8月6日。お昼に全員集合して大学近くの広場で開かれているお祭りへ。そこはやはり外国です。規模が日本のものとは比べようが無いくらい大きなものでした。とても天気が良くて、もっと寒いところだと想像していましたが日本と変わらないくらいの暑さでした。せっかくだし何か買おうということになり、その時は先生に奢っていただきました。カナダドルを持っていなかった私は助かりました。

今回私は日本円を少しと、クレジットカードを持っていきました。寮にはATMがあり私はそこをよく利用していました。日本円をたくさん持ってきたメンバーは銀行でカナダドルに変えていました。ATMはカナダ紙幣で出てくるのですぐに使えて便利でした。寮では基本3食は自分達で用意しなければなりません。私はカナダで使ったお金

のうち、寮で生活したこの2週間に使用したのが殆どでした。食事はもちろん、ロッキーツアーが控えていたのでお土産代にと、多めにおろしておいたからです。意外とお金が掛かったのが水代でした。エドモントンはカナダでも内陸部に属します。そのせいでとても乾燥した気候で目は乾くし、喉も渴くし…水分は欠かせませんでした。それからカナダの飲み物は水以外殆どが甘いものです。アイスティーも、もともとガムシロップ?が入っています。私たちは自販機よりも安いスーパーで水を購入し、寮の冷蔵庫に入れておきました。

8月7日。初めての授業がありました。毎日朝8:00-12:00までがネイティブの先生による英語の授業でした。最初のうちは聞き取りも会話も普通の人には辛いと思います。でも少しずつ耳が慣れてくるので 最低限、普通の大学での英語のクラスを真面目に受けていれば大丈夫だと思います。午前の授業のうち5日間だけ I.T クラスがありました。授業の講師は一般企業から来た方で、さすがに英語のクラスの時とは違って聞き取りがとても大変でした。とは言っても、とても親切な人だったのでこちらから質問すれば丁寧に答えてくれました。

8月9日。こちらに着いてしばらく晴天に恵まれていましたが、今日は曇り。とても涼しい日で、薄い長袖を着ていても朝晩は少し辛かったです。午後が企業訪問ということもあって、朝からほとんどのメンバーがスーツを着用。ところでカナダではスーツの人はあまり見かけません。こちらに来てすぐにあった、パーティーでも少しくずした感じのデザイン性の高いスーツを着る人が多かったです。きっちりした、いかにもスーツを着た人はあまりいませんでした。こちらの男性はほとんどが無条件に高身長、スタイル良しなのでその方が自然に感じられました。また、オフィス街もシャツ・ブラウスやポロシャツ姿の人が多かったです。あくまでもスーツはフォーマルな装いという感覚なのでしょうか。私もこの日の企業訪問はジーンズではないパンツと黒のポロシャツで行きました。

企業訪問は夕方にも終わったので、先生に連れられて皆でウエスト・エドモントン・モール(WEM)へ。大学から直行のバスが出ているので行くのに困りません。\$2450で90分間乗り放題なのは電車、バス共に共通です。WEMは多くの専門店の集まった巨大なショッピングモールです。プラスそこに遊園地・屋内プールがあります。気温の温度差が激しく、乾燥したエドモントンの少し不自由な生活には助かる施設です。買い物と遊びが一度に行える場所なのです。そして、広さが半端ではなかったです。3時間の滞在でしたが、それでも全てのお店をまわることはできませんでした。

8月18日。朝から荷物の整理を始めました。この寮とは今日でお別れです。目が覚めたのは午前8:30。エドモントンに来て初めての丸一日お休みなので、朝遅く起きていいことが幸せでした。同じ階に居た熊大の方々は昨日の夕方にホームステイ先に行ってしまったので、廊下がとても静かです。私たちも明日からホームステイ。メンバー全員で集まって騒ぐ機会もしばらく無いだろうな、と荷物をまとめながら思っていると寂しく感じまし

た。午後は各自、バスの定期券を買いに行く人、図書館でメールをする人、夕食の買出しに行く人に分かれました。この日は霧雨で、とても涼しい日でした。エドモントンは日に日に寒くなってきていて、朝は上着がないと辛い程冷えこみます。

8月27日。この日から一週間、午前の授業がI.Tクラスになりました。今朝の気温は7℃。息が白くて8月なのに冬みたい…カナダにいと改めて実感。授業はエクステンションセンターというI.T関連の授業を行える最新パソコンがたくさん揃った場所で行われました。使用教室はNUISのパソコン室と同じくらい綺麗にされていて、デスクトップ型のパソコンが並んでいました。講師はDesign Pics Inc.から来た、Director of I.T.のMark Bennell氏。事前に聞いていた話とは違って、想像よりはゆっくり丁寧に話してくれる方でした。分からないことがあって質問しても、笑顔で対応してくれる優しい方です。

授業では“Macromedia Dreamweaver 8”というソフトを使用。最初に皆でHTMLの初心者です、みたいな反応したら基礎から丁寧に教えてくれました。(実際には彼が何を話しているのかあんまり聞き取れなかっただけ…ような)予定では月～木曜日で基礎、応用を学んで自分の作りたいウェブページをデザイン、金曜日に各自完成させます。この日の授業では、フォント・配色・画像の挿入・リンクのはり方などを練習。宿題で自分の作りたいホームページのデザインを考えてくることになりました。1年生のとき処理演習で学んだことが生かされると感じました。

それから、カナダではカフェやバーなど飲食をする場では全面禁煙だそうです。タバコの煙が苦手な私はうらやましいと思いました。たとえ客だとしても、吸う場合は必ず店の外にでます。また、日本よりもリサイクル意識が高めなのか、ペットボトルの回収箱が至る所に設置されています。ゴミ箱とは別でたくさん置いてあるので便利です。乾燥しているからこそ、ペットボトル飲料の消費が多い場所だからでしょうか。私たちが5週間生活したエドモントンは新潟とは違ってとても乾燥しています。余談ですがリップクリーム、ハンドクリームは持って行って大正解でした。あと目薬があればなお良いと思います。

9月5日。風邪をひいてしまって、前日の企業訪問には参加できませんでした。話によると、私以外にも体調を崩したメンバーがいたそうです。やはり最終週、疲れが溜まっているのかもしれませんが。どんなに気をつけても病気になっちゃうこともあります…。日本の薬は必ず持っていった方が良いでしょう。

夕食の後、アーラに「あと3日ね。」と言われて初めて帰国する実感がわきました。

9月6日。Mattに提出する課題を夜遅くまでやっていたら睡眠時間が2時間でした。正直ふらふらです。朝ごはんも気持ちが悪くてあんまり食べられませんでした。しかしこんな事が。午前中の英語クラスでのこと。Mattがいきなり「今日はTestをする。とりあえず皆外に出ろ。ついて来い!」と言い出し、ものすごく寒い外に皆を連れ出しました。全員その時は何を考えているんだ、このカナダ人は!と思っていた…というか声に出していました(笑)。着いたのは大学構内の一角。白いテントが出ていて、その前に学生らが列を

つくっていました。私たちも Matt に続いて並んでみると、パンケーキとソーセージ、オレンジジュースが無料で配布されていました。実はそこでは、時間が無くて朝食が用意できない新入生へのボランティア活動が行われていました。そういえば最近電車やバスも混んでいるし、大学でたくさん人を見かけるようになったなあと思いました。こちらは新学期が9月からで、その為に図書館やあちこちの売店で新入生用の教科書類の販売も行われていました。アルバータ大学では外国からの学生を対象としたプログラムが多数あり、こういう活動も少しは関わっているのかなと思いました。

9月8日。ついに出発の日。前の晩に荷物をまとめつつ、今までの回想。帰国が近づくにつれて、何だか…やっぱりあつという間だったかなって思いました。これだけ濃い夏休みは久しぶりでした。

10:15 全員リスターホールに集合。空港へ集合してシアトルへ。今度の入国審査はスムーズに終わってしばらく時間があつたので、売店でシアトルのお土産を少し買いました。空港から自宅に電話を掛けてみると母が出ました。声を聞くとさらに帰国の実感、日本に帰るんだという現実が迫ってくるようでした。カナダについた途端、日本に帰りたかったメンバーもいたそうですが(笑)、逆にもっと滞在したいと思ったメンバーもいました。私は全くホームシックにならず、むしろエミさんの料理が美味しすぎてこっちのほうが良いな…って思ったくらいです。

それから今回海外に住んでみて、改めて日本の生活を見直すきっかけができたとも思いました。外に出てみないと分からないこともあります。例えば小さなことで言えば、日本の食材は新鮮なものが多くて管理体制がそれなりに整っているということ。大きなことを言えば、国民性でしょうか。バスにはベビーカーや車椅子の方が当たり前のように乗車し、乗客はその人たちの乗車をすすんで手伝い、席を譲っていました。日本にも車椅子の方にも対応したバスがありますが、殆ど利用されていないのが現状だと思います。また日本のドライバー優先交通社会ではなく、歩行者が道を渡ろうとしていたら車が必ずといっていい程、停車してくれます。日本ではあまり無い光景だなと思いました。

帰国して携帯電話の電源を入れました。そして部屋のパソコンの電源も。するとメールがたくさん来ていました。久々に見る何気ない日本語の文章に、懐かしさを感じる一方で少しだけ寂しさも感じていました。

留学報告 ―カナダという国で得たこと―

谷川未歩子

カナダ留学を経て私が得たものは、自分の意見を持つこと、意見を言うこと。当たり前のことではあるけれど、とても大切なことです。他にもたくさんの経験や体験をしたけれど、一番色濃く思うのはやはりこれです。特に日本語の通じない海外では、文化も生活も違うため話さなければ何も通じません。しかし、カナダの人はみんな親切で友好的でかつ、明るいです。私の拙い英語でも理解しようとしてくれたり、わからない言葉は丁寧に教えてくれたりと、相手とコミュニケーションをとろうという努力さえあれば何とかかなります。

単語を並べるだけでも意外と通じるものです。主張すること。これは出来る、出来ないではなく、やろうとする。これによって、多少成長できたのではないかと思います。

ホストファミリーの人たちはとても優しく、初海外、初ホームステイで緊張していた私を解きほぐそうと甥の息子の誕生日会に連れて行ってくれました。そして、そこで、知り合った他の中国の留学生や日本の留学生と、またホストファミリーと楽しく話すことによって、少し打ち解けたように思いました。ホストファミリーの人たちは聞き取れない言葉などをもっと簡単な言葉にしてゆっくりと言い直してくれたり、料理の作り方を聞けば料理の本を持ってきて、身振り手振りで料理を教えてくれたりととても親切にしてくれました。

このような、日常生活での会話は普段の Matt との英語の授業とはまた違った意味でとても勉強になりました。

私たちは、自分の知っている世界で物事を図りますが、ひとたびその世界から抜け出して外の世界を見てみると、自分の知らない世界が無限に広がっています。今回のカナダ留学で、カナダという国の良いところ、また、日本の良いところを再認識することができたのではないかと感じました。



語学留学の経験

富山 貴旭

“How are you?”—「調子はどうですか？」と聞かれたらとりあえず「元気です」と答えてしまいます。それは今まで、日本で学んだ英語の意味をそのまま暗記しているからです。そのため例え、眠かろうが疲れていようがとりあえず“I’m fine”と答えてしまうのです。相手が要求した質問にすぐさま答えるのは良いことかもしれないが、それでは実際に自分の思っていることを相手に伝えられないのでまったく答えになっていません。また、今までの学習はテキストで書いてあったものをそのまま読むだけであつたので、言葉にまったくの感情がこもってない平坦な言葉となっていました。そんな何も考えないで反射的に答えてしまう癖がついてしまって、ついついカナダの人に「日本は今も雪が降っているか」と聞かれたとき、ついつい意味を理解しないで「はい」と答えてしまったことがありました。確かに日本で英語は学びましたが、それは成績を取るためであつて話すために勉強しているつもりはまったくなかったのです。その結果、何も考えずに反射的に答えてしまう悪い癖がついてしまいました。

しかし、カナダでの約一ヶ月の生活がそれを大きく変えました。カナダの人たちはとに

かく見知らぬ人でも気軽に話しかける人たちであり、日本人なら黙って当たり前のエレベーターの中でも、カナダでは話して当たり前の環境なのです。そのため、カナダ人と一緒になったときには、どんなときでも話をしなくてはなりません。しかも、彼らが話す英語は授業で習うような遅く分かりやすい英語とは違い、早口でスラングがあり集中しないと聞き逃してしまいそうなほど難しい英語です。そのため、カナダ人と会話をするときには集中してその話を聞くようになりました。しかしそれが、ちゃんと英語を理解できるようになるチャンスだったと思います。「今日は暑いねえ」「今回は何を買うの？」などの会話を今までは何を喋って良いかわからず口籠ってしまったり、良くて適当に「はい」や「そうですねえ」など答えていた今までとは違い、それに対応した自分の意思を相手に伝えるようになりました。正確に理解する為には当然相手が何を言っているのか理解しないといけないため、私は毎回カナダ人と話すときは集中して聞くことになりました。最初はそれでも聞き間違えたり自分の言いたいことが英語で言えなかったりとすぐには慣れることが出来ませんでした。カナダ滞在の半分くらいの期間が過ぎると自分の言いたいことが言えるようになり、後半になるとそれがすぐに答えられるようになりました。特にそれが出来るようになった原因はホームステイにあるのではないかと今は思います。

ホームステイの家族達は当然英語しか喋れないので英語で話さなくてはなりません。最初は「言葉が通じなかったらどうしよう」と言う不安がありましたし、その不安は的中してホストマザーの手料理を「美味しくない」と言い間違えたりもしました。しかし、ホストファミリーはその事を分かってくれて、間違いを優しく教えてくれ、今までずさんだった英会話の手法を身につけ、辞書を片手にホストファミリーに日本のことを教えていたことも英文を構築する力になってのではないのかと思います。

こんなことがあり、このカナダでの五週間で私の英会話の力は上がったのではないのかと思います。ただ、せっかく慣れたところで帰国してしまったのはあまりにも残念で仕方ありませんでした。将来もう一度カナダへ渡ってその英語の能力を最初からフルに使いたいと願って止みません。

留学報告書

野村翔太郎

まず、行く前に一番不安だったことは言語の壁でした。聞き取りも発音も総じて駄目な私は本当に困り果てました。

実際、行ってみるとやはり私が一番困ったのは相手とのコミュニケーションでした。聞いて理解するということはそれなりにできるようにはなるのですが、少し高度な質問や会話になると途端に答えられないということが多々ありました。そのため、相手を困らせてしまう場面がありました。

わかるのに答えられないというのは本当にものすごく歯がゆかったです。聞くことだけでなくこちらからしゃべりかけるという事をカナダに行く前にもっと意識していればな、と今でも思います。それをする事によってもっともっと充実した生活が送れたなあと思い

ます。

また、向こうの方たち全員がそうだというわけではないですけども、なかなか時間にルーズな人が多いかなとも感じました。そのあたりは多少なりとも予備知識として知っておくべきでした。他にも、モニターの人が遅れてきて私たちはこの後どうすればいいんだろうということが多々あり、本当に困りました。そういったことのないように彼らの連絡先をきちんと把握し、次の予定のことまで聞くぐらいの積極性があったほうがいいと感じました。

そのほかには、私たちが行った日はお祭りがあったのですがその日は銀行も休みでお金をカナダドルに替えれなかったのも思う存分楽しむことができませんでした。空港、時間の余裕のある成田空港でレートは割高かもしれませんが少しばかり変えたほうがいいと思います。

さらに今後の要望としては、企業訪問の企業をある程度こちらから選べるようにすることとスケジュール管理をしっかりしてほしいということに尽きます。

特に、スケジュール管理については今年はひどかったとしか私には思えなかったです。予定の時間になってもモニターの方は現れず、いきなり行き先変更されたりと。かなり困惑しました。もちろん、彼らに聞かなかった私たちも悪いのですが、それにしてももう少し事前連絡をきちんとしてほしかったです。ホームステイ先が当日になってもどこに行くのかわからない、どんな人なのかわからないというのは本当に不安でした。ホームステイに関してはせめて2日前、どんなにぎりぎりでも前日には教えてほしかったです。

企業訪問については、ソフトウェア開発企業や IT 関連企業のみならず、さまざまな選択肢があってもよかったと思います。もちろん技術系の仕事をじかに見れたのはとても貴重な体験になりましたが、教育の現場、金融業、医療現場なども選択肢にいれてほしいです。どんな企業に訪問できるかをある程度選べれば、訪問する意欲も意義も大きくなると思います。

カナダでくじけたこと

渡辺 貴人

初めての海外がこの留学で本当によかったと思います。海外・・・といっても英語圏！辞書と勇気があれば何とか意思は通じるだろうと甘い考えでいき、あえなく玉砕しました。

玉砕ポイント1: 単語

電子辞書を持っていったため単語は分かる…が、和英辞典を開いてほしい。そこにあるのはスペルが違うのに日本語的には同じ意味の単語たち(例:見る see, watch, look)。これらは何が違うんですか？パニックです。カナダのモニター（自分たちの面倒をみてる人）に聞いたところ自分の視界に自然に入ってくるのが see。自分の意志で見るのが watch。相手の注意を促すのが look。という認識だということです。それをとっさに判断して話す。日本語でさえ作文でダメだしをされる私には到底無理な芸当です。この対応策として簡単な英語とジェスチャーによって自分の意思を伝えることに成功しました。

玉砕ポイント2:命令形

文法で嫌なのは動詞を主語の前におくと命令形になってしまい相手に嫌な思いをさせること。相手も人間ですからね、しかも気持ちを表現するのは我々日本人よりも慣れている人たちです。意思を態度でストレートに表現します。留学生活で接する人たち（ホストファミリー・先生など）は私たちが間違った英語の使い方をすればすぐに優しく直してくれます。しかし、一度外にできれば普通に生活している人たちばかり！間違った英語を使えば首を傾けられるでしょう。でもカナダの人たちは優しいです。私たちが間違った英語で話しかけても真剣に聞いてくれますし、分かりやすく説明してくれる人もたくさんいました。気をつけてほしいのは会話の最初に命令形で話してしまうことです。英語で話すことに慣れないと Can you…? や Would you…? などの丁寧な聞き方を使う余裕がなく、単語で話しをすることが多くなると思います。なのでせめて相手に嫌な思いをさせないために、動詞を先に使わないようにするか、最初に Please を使えば問題なく過ごせると思います。

玉砕ポイント3:聞き取り

これはもうぶっちゃけ過酷ですよ。私はリスニング能力がないことに関してものすごく自信があります。リスニングテストを思い返せば自分が哀れすぎて涙が出てくるほどです。カナダでの最初の英語の講義→先生は英語しかしゃべらない→ポカーン。最初の外食→店員さんは英語しかしゃべらない→私「Yes! Yes!!」→予想外の食べ物が出てくる。最初のカンバゼーションクラブ→モニターは（日本語しゃべれる人もいたが）英語しかしゃべらない→とりあえずみんなが笑ったら自分も爆笑（内容は全然分からない）。もうね、会話ってこんなにつまらないのかって思いましたよ。でも安心してください。リスニング能力に関してはカナダで一日過ごすごとに飛躍的に成長します。日に日に聞き取れるようになって英語って面白いじゃん！となると思います。カナダの人は表現力豊かでユーモアもあって面白い！自信がなくても大丈夫！なにしろリスニング嫌いの私でも大丈夫でしたから。

私のカナダ留学での玉砕ポイントは以上です。結論は最初はきつかったけど慣れれば楽しいということです。アルバータ大学は留学生をたくさん受け入れていますから、多少の失敗をしても向こうの人も慣れているため問題なく対応していただけるので安心して英語に専念できます。英語を勉強するには最高の環境だと思います。

Faculty Social ―ダンスは国境を越えました―

谷川未歩子

カナダに着いてから3日目。私たち Faculty Social という留学生歓迎会に参加しました。この歓迎会は、女性はドレス、男性はスーツが一般的のいわゆるパーティーで、高級ホテル Hotel Macdonald で開かれました。

私たちのときは、午前中は普通授業、12時から自由行動となり、17時に寮の前に集合し、いつものレトロ感溢れるスクールバスに乗り、ホテルを目指しました。8月とはいえ、夜ですので、外は冷えていたため、ドレスでは少し肌寒かったです。ホテルに着くと、煌びやかなシャンデリアと高そうな絨毯が迎えてくれました。

机は大学ごとに指定されているようで、私たちは10人が座れる丸テーブルに座りました。この歓迎会はこの夏にアルバータ大に留学する学生全員を集めて行うため、中国、韓国、インド、日本の各大学と様々な人が集まっており、改めてアルバータ大はすごいと実感しました。

留学担当の責任者である、Mimi やその他大勢のスピーチの後はお待ちかねのフルコースです。成人した人は半券でワインを飲むこともできるため、本場のワインを味わうこともできます。料理は人によっては、口に合わない人もいました。どうやら、サラダにワインが入っていたようです。料理の量は半端なく多いので無理して食べると動けなくなります。

料理が終わると、ワインを配っていたホールで渡辺君がダンスを踊り始めました。渡辺君はダンス好きが高じてダンス部に所属しています。始めは1人で踊っていたようですが、徐々に人が集まってきて最終的には日本の他大学の学生と踊ったり、ダンスが踊れない人はその周りでリズムをとったりと、ダンスの輪が広まってホールは熱気に満ち溢れていました。みんなで楽しさを共有できる空間となっていて素晴らしいと思いました。ダンスのホールに行かない人は、ホールの外にはテラスのような場所があり、夜景を楽しむことができました。ただ、私たちのときは雨が降っていたので、じつくりとテラスにいられなかったのが現状ですが。

パーティーが終わったのは11時頃なので、結局寮について時刻は12時頃でした。思い思いにパーティーを満喫したためか、眠そうな人、寝ている人などみんなぐったりしていましたが、日本では経験できない体験の一つでとても素敵な体験だったと思います。

Canadian Rockies Tour

荒川 章子

私たちはカナダに行った一週目の週末、8月10(金)～12(日)の3日間、Canadian Rockies Trip に行きました。

8月10日(金) 1日目

朝は8時半くらいにリスター寮のエントランスに集合して、バスでロッキーまで向かいました。私たち国情生のほかに、成城大学の留学生も一緒にロッキーツアーに行きました。また小宮山先生と、成城大学の先生、そしてアルバータ大学のガイドの、ライアンと学生のメグも一緒でした。バスに乗ること約4時間、お昼の時間になり私たちは途中のレストランでランチをとりました。バイキング形式で、スイーツもあり結構ボリュームがありました。

その後またしばらくバスに乗り、ついにロッキー登山です。ロッキーは非常に寒いです。私たちの思っていたよりもはるかに寒かったです。私たちはしっかりと防寒具を着ていなかったのですが、他の登山客の人たちは完全防備といった感じで、マフラーや帽子まで被っていました。明らかに私たちの服装は場違いでした(泣)。来年行く人はきちんと防寒対策をしていきましょう。ロッキーはアイスフィールドでした。氷が青く透き通っていてとてもきれいでした。また、頂上に近づくにつれて道が険しくなっていき、どんどんとタイヤの大きいバスに乗り換えていきました。頂上に着いて景色を見渡したり、みんな

で記念撮影をしたりしました。その後またバスで下山し、夕食のためにバンフにあるレストランで夕食をとりました。ここでもまたまたバイキング形式でした。

そして、ロッキーツアー中の宿泊先であるバンフセンターに向かいました。2人1部屋で泊まりました。その日は疲れていたもので、シャワーを浴びたあと、テレビを見ながらベッドで横になっていたら、いつの間にかそのまま眠ってしまっていました。

8月11日(土) 2日目

2日目はレイクルイーズにカヌーをしに行きました。行ったばかりのころは霧がかかっていて、しばらく霧が晴れるまで待ちました。その後だんだんと霧が晴れてきて、ロッキーやレイクルイーズの素晴らしい景色がはつきりと見えるようになってきました。そして私たちは3人1組になってカヌーに乗り込みました。3人で息を合わせて漕いで行くのは結構難しかったのですが、うまく進めないことが逆におかしくて、みんなで笑いながら漕いでいました。ロッキーの美しく雄大な景色を眺めながら、きれいでおいしい空気を吸いながらカヌーをして、本当にすがすがしい気分になりました。

カヌーを楽しんだ後、レイクルイーズのレストランでランチをとりました。またまたバイキングでした。体重が…。そこのバイキングは結構豪華で種類がとっても豊富で、シーフードも充実していました。カナダに来て以来あまりシーフードを食べていなかったのがうれしかったです。Conversation ClubなどでMarkに聞いた話ですが、カナダの人はあまりシーフードを食べない傾向にあるそうです。大まかに言うと頻度としては、肉と魚を8:2くらいの割合で食べるのだそうです。ですがこのときはカニや、カナダの名物の一つであるスモークサーモン、またスイーツも数多くあり、何を食べるか迷ってしまいそうでした。みんなおなか一杯食べて大満足でした。

その後夕方になるとまたバンフセンターに戻り、バンフの土産物屋に行きました。たくさんさんの土産物屋が軒を連ねていました。見て回るだけでもかなり時間がかかります。バンフは日本人観光客が多く来るのだそうで、日本人向けのお店がたくさんありました。日本人が経営しているお店も何件かありました。久しぶりにメンバー以外の人から日本語を聞きました。カナダらしいお土産がより取り見取りなのでバンフでお土産を買っていくと思います。ただしお土産はあまり荷物にならない程度に抑えたほうがいいと思います。

その日の夕食はバンフのピザ屋に成城生と国情生一緒に行きました。私は昼食のバイキングでおなか一杯だったのであまり食べずに、また買い物に行きました。買い物の後、またバンフセンターに戻り、その日も疲れていたものでシャワーを浴びた後、またあつという間に眠りにつきました。

8月12日(土) 3日目

3日目はバンフセンターでチェックアウトをした後、バンフホテルという有名で立派な建物を見に行きました。城のような建物でした。辺りを散歩してみんなで記念撮影したりしました。

お昼になるとバンフの日本料理店に行きました。「杉乃屋」というところです。カナダでも日本料理を食べられるお店は結構あります。ただし日本で食べるものと結構違ったりする場合もありますが…。そのお店にもよります。その日食べたものは、天ぷら、お味噌汁、ご飯(タイ米でない)、冷奴、御造りなどでした。日本で食べるものと完全に同じとはいえ

ないものの、久しぶりの日本食に少し感動しました。やっぱり私は日本人なんだなあ、と改めて思いました。アルバータ大学の近くでは、「京都」、「YOKOZUNA」などの日本料理店があります。おそらくほかにも何件かあります。来年行く人もぜひ探してみたらどうでしょうか。そしてまた長い時間をかけて、リスター寮までバスで帰りました。

ロッキーツアーでは、日本では見ることができないようなロッキーの雄大な景色や、美しいレイクルイーズの景色などを見て、そのすばらしさを実感できました。カナダに行きたいと少しでも思っている人はぜひ行きましょう。行かないで後悔することはあっても、行って帰ってきて後悔することはまずないと思います。



Canadian Rockies

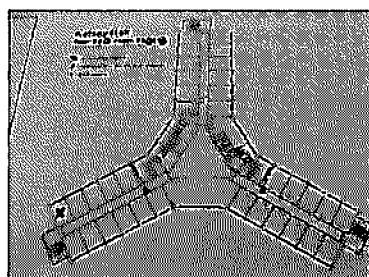
Lake Louise

寮と寮生活について

井田 知織

私たちは始めの2週間をリスターセンターという大学内の敷地にある寮で過ごしました。寮はアルバータ大学の学生が普段使っているものを夏休みだけ海外セミナーに来る留学生のために使われていて、私たちの階は新潟国際情報大学と熊本大学の生徒だけで使っていました。寮は1人部屋か2人部屋で、部屋の中には勉強机とベッドとクローゼットがあり、シーツやタオルも2日置きぐらいに変えてくれて、部屋にはしっかり鍵もついていました。階の真ん中にはソファやテレビがあってみんなでくつろぐことができます。また寮生活の間は食事をすべて自分たちで用意しなければいけないのでキッチンもありました。キッチンには電子レンジと冷蔵庫しかないのですがそのほかのものはすべて自分達で用意しなければいけませんでした。寮の一階には24時間営業ではないですが、軽食や売店みたいなところもありました。寮生活で一番困ったことは食事面で、毎食外食だとすごくお金がかかってしまうのでみんなで共用するフライパンなどのキッチン道具を買い自炊をするのがとても大変でした。寮から歩いて15分ぐらいのところにスーパーがあってそこにだいたいの食材などが揃っていました。始めは個人個人で食材を買って各自で食べていたのですが、みんなで割り勘をしてまとめて材料を買い、料理をするほうがとてもお得でそっちのほうがみんなの仲も深まることができました。カナダの食事は味が濃くて1週

間もするとすごく日本食が恋しくなりました。カナダにある日本食屋さんは値段も高く、日本のインスタントラーメンなどもスーパーなどに売っていましたが、味付けも日本でたべるものと違うので日本からインスタントラーメンや梅干などを持ってくればよかったととても後悔しました。シャワーも少ない数しかないのでタイミングをずらして入らなければいけないので大変でした。シャワーのスペースもすごく狭いし、シャワーの順番を待っている人がたくさんいて短い時間で洗わないといけなかったので始めは不便に感じますがそのうち慣れてきました。洗濯はキッチンの横にあるコイン式の洗濯機と乾燥機を何人かでまとめて使用し節約をしたりしていました。寮には日本人以外の学生もたくさんいて中には怪しい人もたくさんいるので鍵をこまめにかけて出歩くや貴重品の管理などの注意もしなければいけませんでした。私は国際携帯を持って行ってなかったので、日本の家族や友達に電話をかける時はプリペイドカードを買って寮の1階にある公衆電話を使っていました。寮にはたくさん人がいて友達を作るチャンスで自分たちの大学の学生ばかりというのではなく、違う大学の学生と仲良くなることで色んなことを教えてもらうこともできました。寮生活は Home stay とは違って英語を学ぶというよりは共同生活を学んだところでした。厳しい環境の中で自分勝手に動くのではなく、みんなで話し合い協力し合うことで成長することができました。



Home stay

Home stay について

荒川 章子

私がホームステイをしていたのは、アルバータ大学から見て北東のエリアです。朝は 6 時くらいに起きて準備をし、7 時少し前に家の真横のバス停からバスに乗ります。バス停が家の真横というのはラッキーでした。私の場合、だいたい通学に 1 時間くらいかかりました。朝も少し早いので結構キツかったです。そのホームステイ先によって通勤時間は本当にまちまちでした。

ホストファミリーは、Mother の Debbie Hart、Sister の Amanda, Jenny, Breanne、それからマルチーズの Winkle でした。私と、同じく国情生の池優佳里さんと、それから静岡大学 1 年生の男の子と 3 人同じホームステイ先でした。Mother によると、3 人一時に受け入れるのは初めてだと言っていました。たぶん今年は受け入れ先が少なかったか、留学生が多かったかなのだと思います。同じ大学の子と一緒にホームステイ先になれるとは思っていませんでした。

Mother の Debbie は陽気で優しい人でした。大学に通っていて Criminal behavior を学んでいるそうです。いつもダイニングでものすごい量のレポートを書いていた。一

番上の 20 歳の Amanda はこれまた陽気なお姉さんでした。アルバータ大学の学生です。私たちをよくどこかに連れて行ってくれました。二番目の 18 歳の Jenny は今年 (2007 年) の 9 月から大学生になるそうです。おしゃれ好きで、また馬が好きなようでした。一番下の 13 歳の Breanne は中学生です。スポーツ好きで活発な女の子でした。部屋にはたくさんのメダルなどが飾ってありました。そして、マルチーズの Winkle は毛色が白でフワフワしていてとってもカワイかったです。いつもウルウルした瞳で見つめてきました。私が大学から帰ってくるといつも出迎えてくれました。Winkle は私をとって癒しでした。

私たちはホストファミリーに日本からお土産を持っていきました。私は扇子や、和柄の箸、手ぬぐい、招き猫などを持っていきました。Mother はとても喜んでくれました。Home stay に行く際には何かお土産を持って行ってあげると喜ばれると思うので、日本で何か用意していきましょう。成田空港でもお土産にできそうなものがたくさん売っています。

私たち留学生が使っていた部屋は、私が Breanne の部屋、池さんが Jenny の部屋、静大生が地下の空き部屋といった感じでした。

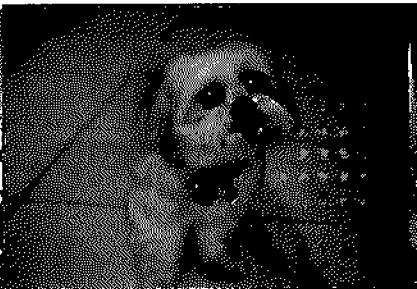
家には、よく家族の友人やボーイフレンドなどが訪れました。家に帰ると毎日といってよいほど誰か友達が来ていました。最初のうちは、私が帰ってきて家の網戸から知らない人が見えたときに、一瞬家を間違えたのかと思うときもありました。結構にぎやかでした。

また、Amanda はよく私たちをどこかに連れて行ってくれました。Amanda の友人たちと一緒に Diner を食べに行ったり、友人の誕生日パーティーに行ったり、Club に行ったり、Café にいったりしました。カナダの若者の生活を一緒に体験させてもらった感じでした。毎回とても新鮮でした。

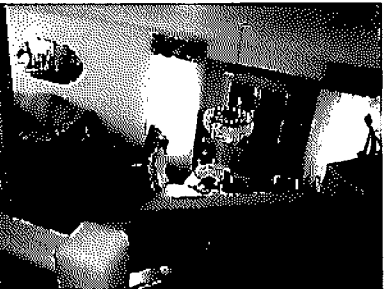
Mother は私たちが日本に帰る日、大学まで見送ってくれました。Mother をはじめ、ホストファミリーやその友人たちには最初から最後まで本当にお世話になりました。家族の一員として私たちに温かく接してくれました。本当に感謝です。



Hart 家の外観



Winkle



living room

Home stay について

井田 知織

この海外セミナーで一番不安だったことは Home stay でした。8 月 19 日まで Home stay 先の住所も家族構成も一切教えられず、私たちは寮の入り口で自分のホストファミリーが迎えに来てくれるのを待っていました。一人ずつどんどん自分のホストファミリーが迎えに来ていなくなっていました。私は心の中でこのまま私だけホストファミが迎えに来ないで寮ですと暮らしたいぐらい Home stay が怖くてたまりませんでした。しばらくす

ると私の名前が呼ばれ行くとそこには黒人の女性が2人と日本人の女性が1人いました。私が緊張して挨拶をするとみんなすごく明るく迎え入れてくれました。私のホストマザーはシンシアといい、とても明るく歌や花が大好きで本当の家族のように私と接してくれました。娘のサラはいつも元気でいたずら好きですぐ仲良くなることができました。一緒にいた日本人の女性はチカさんといい、東京の大学生で1週間前からシンシアの家で Home stay をしていて英語科を専攻していることもありすごく英語がペラペラですごく優しくて私をたくさん助けてくれました。シンシアとサラは2人暮らしをしていて、毎年何人もの留学生を受け入れていてとてもにぎやかな家庭でした。シンシアの作る料理はどれもおいしく品数もすごく多くて、私も色んな料理の作り方を教えてもらいました。料理を食べた後はみんなでテレビや映画を見たり、日本のことやサラが生まれた頃の話をしたりしてみんなでたくさん会話をしていく中で英語が自然にでてくるようになっていました。私が日本のお土産で扇子や折り紙や日本のお菓子をあげるととても喜んでくれて、いつか日本に行ってみたいと言ってくれました。

ただ一つ問題点があってそれは通学でした。シンシアの家は大学からとても離れていて毎日朝の5時半に起きてバスを乗りついで行かなければいけませんでした。朝の苦手な私にはとても過酷で、宿題も毎日あって夜中までかかっていたので慣れるまでは本当に苦労しました。シンシアはそんな私のために毎日もっと早く起きてお弁当と朝食を作ってくれて感謝してもたりないくらい色んなことをしてくれました。休みの日にはみんなで買い物や教会に行ったりしてたくさんのところに連れて行ってくれました。ある日シンシアの友人の家にも招待され、その地域の民族衣装を着せてもらったり、民族音楽を聞かせてもらったりしてとても貴重な体験もすることができました。シンシアの友達のおばあちゃんに帰るときに手作りのアクセサリーをもらい、別れ際にはみんなが「来年またカナダに遊びにきてね」と言ってくれて本当に温かい人ばかりでした。8月24日がシンシアの誕生日で、みんなでシンシアには内緒でパーティを計画してケーキやプレゼントをあげたらシンシアが泣きながら喜んでくれた時はとてもうれしかったです。私が体調を崩して寝込んでいるときも毛布やスープを作ってくれて、本当の家族のようになっていてあんなに不安だった Home stay が嘘のように毎日がすごい速さで過ぎていきました。シンシアとサラに出会い、一緒に生活をしていく中でたくさんのことを学び、すばらしい思い出を作ることができこの家で Home stay ができて本当によかったと思いました。

Home Stay Kristian & Emy Gordon 家

近藤 悠実

私と古泉さんがお世話になったのは大学から離れた北方面に住むゴードン夫妻のお宅でした。これまで出会ったカナダの人たちの誰よりも笑顔で私たちを迎えてくれました。そしてあいさつもそこそこに、すぐに家と大学間の道を教えてくれました。その親切さに本当に感激しました。私が心配だったことに通学方法のことがあったので、本当に助かりました。もしかしたら大学側に確認するように言われていたかもしれないけれど、それでも

ひとつひとつ私たちに確認をしながら教えてくれました。旦那さんのクリスチャンはとても大きなカナダ人で、奥さんのエミはとても愛嬌があるフィリピンの方でした。

その後、そのまま買い物へ行きました。どうやら私たちの分の食料を調達しに行くようでした。ホームステイではホストファミリーが大学に持っていくランチを用意してくれます。Gordon 家ではエミさんが買ってきた材料を使って、自分達でサンドウィッチを毎晩作り持って行っていました。水を選んでいたら、2人が私たちに大学に持っていく飲み物は何か良いか?と聞いてきました。やっぱり無難に水がいいよね。ジュースとか日本のものより甘いものばかりだし…。ということでウォーターがいい、と伝えました。少し驚かれました。もっと高いものにすればいいのに、の様なことを言われた気がします。それから2人は水を買ってくれましたが、その量も凄かったです。3箱。1箱で15本くらいはあった様な。カナダの人は買い物が豪快なのかな、と思いました。しかし他のお家にホームステイしたメンバーの話を聞くと、そうでもなかったようです。ホームステイに参加する家には大きく分けて2パターンあります。この Gordon 家のようにボランティアで学生を迎えるお家。そして学生を迎えることで報酬を得ようとするお家です。どちらが良い、悪いの話ではありませんが、今思えば本当に何不自由無く Gordon 夫妻は私たちに生活を送らせてくださいました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

買い物終わり、ほとんど夜中にお家に着きました。辺りも真っ暗で家の外見がぼんやりとしか確認できませんでした。中に入ってみると再び驚愕。シャンデリア、広いリビングダイニング、広い地下室…。お金持ちなんだね、と私たちは日本語で感想一言。そして何と、私たちにはひとりひとりに部屋がありました。まさか個室が用意されているなんて思いもしなかったのが嬉しかったです。私たち専用のシャワー室も与えられました。私の部屋、古泉さんの部屋、シャワー室が隣り合っていて家の2階の半分を占めていました。寝る前にエミさんは朝乗るバスの時間を調べてくれました。私たちはランチのサンドウィッチを作りました。

Gordon 家にはクリスチャン、エミさんの他にエミさんの妹レミさん。そしてフィリピン人の親戚、アーラさんが住んでいました。特にアーラさんは私たちと年齢も近く、家にいることが多い人だったので Gordon 家の中で一番会話した人でした。カナダ人の有名アーティスト、アヴリル・ラヴィーンの曲をたくさん聴かせてくれました。



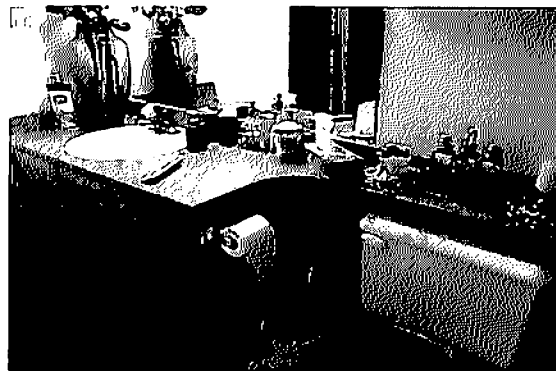
ホームステイ1日目。カナダにはサマータイムがあります。ほとんどの日本人にはなじみの薄い、サマータイム。カナダでは夏の昼間が長い季節、通常9時に始まる授業も8時から始まります。おそらく明るい日中を有効的に使おうということなのかもしれません(冬は昼間がとても短いので)。しかし私達はこれに苦しめられました。ホームステイ先が大

学まで1時間以上かかるメンバーもいたので、朝の支度も合わせると…。ほぼ毎日寝不足の日が続きました。そしてこの日は5時半に起きて6時半過ぎのバスにちゃんと間に合いました。バス停が家からとても近いところにあったので良かったです。朝食はシリアルをいただきました。朝、昼食は軽くとして夕食は豪勢に、がこちらの風習のようでした。日本ではあまり見ない、メープル味のシリアルはお菓子のようでとても美味しかったです。帰宅する際、降りるべきバス停を間違えてしまってかなり家まで歩く羽目になってしまいました。これも良い思い出かなと周りの風景を楽しみながら帰りました。

天気も良かったので家ははっきりと見えました。実はこの時 Gordon 家を私たちは見つけるのに少し苦労しました。初めて着いた時はっきりと家を見ていなかったし、朝も暗くてよくわからなかったのですが、周辺の家という家がほとんど薄いベージュ色だったので。特にこれと言って特徴のない住宅の密集地だったので混乱してしまいました。古泉さんは1週間くらい Gordon 家がどの家か分からなかったです(笑)。確かに日本の住宅地でももっと色々な色の壁の家があるし…カナダは外装よりも内装にこだわる人が多いのでしょうか。中は地下、1階は駐車場、2階がリビングダイニング、キッチン、私たちの部屋、3階が夫妻の部屋でした。地下には洗濯室とアーラ、レミさんの部屋がありました。地下にはパソコンの部屋と小さなシアター室もありました。



Gordon 家の外観



私たち専用のシャワールーム

私たちは家の鍵をひとつ持たされていました。夫妻を含め Gordon 家の人全員が働いているという理由もあったと思います。去年か一昨年の留学報告書にカナダには昼間家に鍵を掛けておかない家が多いと書いてありましたが、その地域や家庭によって様々だと思います。Gordon 家では、家に誰かしら居たとしても常に鍵を掛けていました。そして私と古泉さん2人が留守番をする時には誰が来ても絶対に鍵を開けてはならないとエミさんに言われました。ホームステイしている間は帰宅、2人でお菓子を食べる、お洗濯をする、宿題をする、という生活パターンで夕食は夫妻が毎晩作ってくれました。エミがフィリピンの方というのもあるせいか、お米(ピラフ)が並ぶことも多くて嬉しかったです。クリスチャンはよくテラスで照り焼きチキンや、ステーキを焼いてくれました。

そして夫妻は週に2回お祈りの為に教会に行っていました。そんな夜はレミさんかアーラが夕食を用意してくれました。さすがに何もしないのも悪いと思い、食器の用意や後片付けを手伝うようにしました。お世話になっているのだから自分達で出来ることは進んでしたほうが良いです。出される食事はやはり日本食よりも油っこいものが多かったです。

チキン、ステーキ、ピザ、春巻きなど。サラダが食べたいと申し出たところ、キャベツを買ってきてくれました。これも重要なことで、カナダではあまり野菜を摂らない食事になりがちです。ただあまり新鮮じゃないことが残念でしたが…。

こうして文句のつけようの無い私たちのホームステイは終わっていきました。途中2回、他の家にホームステイしていたメンバーがこちらに遊びに来てくれました。遊びに来たという、一時避難？でした。どうやら食事等に不満を持っていたらしく、遊びに来たついでに Gordon 家でレミさんの作った前の晩の残り物を食べていってもらいました。お菓子も少し分けてあげました。こんな時頼りになるのは、やはり他のメンバーです。(本当にホームステイが合わない場合は家をチェンジするという選択肢もありますが…)日本でも滅多に経験することが無いだろう、他人の家での長期に渡る生活。ましてやそれが海外だと文化面での問題も出てくると思います。私は今回ひとりではなく日本人のメンバーと一緒にホームステイしたわけですが、かなり彼女には助けられました。支え合いました。Gordon 家は一例に過ぎません。これからホームステイを経験する人が私と同じように満足する保障はどこにもありません。もちろん時には成長することも大切ですが、本当に辛い時、困った時は他のメンバーに頼ることもひとつの手だと思います。

フェアウェルディナー

池 優佳里

私たちは最終日にフェアウェルディナーに行きました。そこでは始めに表彰式を行い、そのあとに豪華なランチをいただきました。

表彰式では最後までカナダ留学に参加した表彰として1人1人に賞状が担任の先生から送られました。そのほかにもこの留学で一番英語が上達した人を表彰したりなどいろいろな賞をいただきました。

表彰が終わった後に豪華なランチをいただきました。ビーフかチキンの2種類のコースがありました。カナダでは料理を選ぶ際に必ずというくらいビーフとチキンの2種類がでています。料理はみんなとてもおいしくいただきました。

このフェアウェルディナーのときにメンバーの1人が誕生日だったので誕生日パーティーも

行いました。このときはカナダ留学をしめくくるといふものの実感があまり無かったですが、とてもみんな楽しむことができました。しかし、今までお世話になったアルバータ大学の学生の人たちが全員参加していなかったことはとても残念でした。



飛行機について ー乗り換えには気をつけて！ー

谷川未歩子

私たちの行きの飛行機の旅はシアトルで乗り換えをし、エドモントンに着くといったものでした。ここで、問題となる点は『飛行機はまず間違いなく遅れる』ということを入れておく必要があります。そのため次の飛行機までの乗り換え時間が少ないと次の飛行機に乗れません。乗れなかったら現地で交渉しかないと、乗り換え時間を多め取っておく必要があります。特にシアトルでの検問は厳しく、また8月の頭ということもあり、日本側の検問は長蛇の列が予想されます。頑張ってください。

シアトルでの乗換え

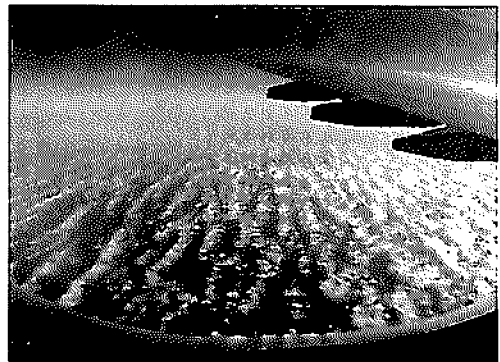
シアトル空港についたらここでは、入国し、出国するというプロセスを行わなければなりません。①入国審査ではまず、国ごとに配置された検問で写真撮影や指紋のチェック。また、係官から入国目的と滞在日数などを聞かれます。ここをクリアしたら、②ベルトコンベアーに乗っている成田空港で預けた送る荷物を回収し、③それを便ごとに飛行機に乗せるため屈強な男性に預け、④手荷物検査の列に並びます。この列で異常に時間がかかるので注意が必要です。やっと自分の検査の番がきたら、手荷物を赤外線に通し、自分の方は靴を脱ぎ、金属チェックをし、⑤地下鉄に乗って飛行機の場所まで行きます。この段階でもう荷物はカナダ行きの飛行機に載っているので送る荷物の心配はしなくても大丈夫です。自分たちは⑥出国の手続きをします。出国では、成田空港でやったような、荷物を赤外線に通す、金属チェックなどをし、⑦搭乗口まで行きます。スムーズに乗り換え時間内で行えれば、乗り換えはこれで完了です。あとはアルバータ空港で、入国審査をし、荷物を受け取り、アルバータ大のバスが待っているののでそれに乗り飛行機の旅は完了です。

荷物についてのポイント

- ・手荷物は少なく、軽く、移動に楽なものを。→迅速に動ける
- ・送る方の荷物も少なめに。多めになるのならキャスター付きとか、とにかく移動に楽なものを選択するといいです。

機内での過ごし方

長時間のフライトのため、暇になります。また、機内での座席の枕にあたる部分が出っ張っているため頭を後ろに下げられません。なので、100円均一などで売っている首枕などがあるととても便利です。たかが首枕と侮ってはいけません。これがあると、首が非常に楽です。また、フライトアテンダントはみんな英語を話してきますが、何とかあります。大丈夫です。食事のときだけではなく、定期的に飲み物を配っているので、エコノミー症候群にならないように、水をもらおうといいと思います。



イベント一覧

Festival

池 優佳里



たちが行った時は8月4、5、6日の3日間この Festival が開催されていて、そこではカナダだけでなく約60カ国の出店が開かれていました。

カナダの Festival は人の数も会場の大きさも日本とは全く違いました。その中でも1年に1回8月の3日間開かれる Heritage Festival は私たちが行った中

でも1番規模が大きかったです。私



その出店ではその国にしかない有名な料理や小物が売られています。それらの商品を買うには専用のチケットを買わなければなりません。そのチケットは専用のチケット売り場がありますが、いつでもすごい行列で買うのがとても大変でした。

料理は、その国々でいろいろな料理があるので、とても楽しみながらいろいろな味を体験することができます。私たちはその中でもマンゴーを食べましたが、味が甘いような辛いような微妙な味がしました。皆さんマンゴーを買うのはやめておいたほうがいいと思います。

この Heritage Festival は出店だけでなく各国の出し物もあります。この出し物はその国ならではのダンスや音楽です。出し物や出店の中には日本もあり、日本の出し物は剣道や空手などが行われていました。

カナダでは大きな Festival のほかにも日曜日にホワイトアビニューという大きなショッピング街の通りの道にいろいろなパフォーマンスや出店をだす Festival がおこなわれています。この Festival は Heritage Festival と違いそこまで規模は大きくないですが、多くのひとが参加でき、楽しめる Festival でした。

Outdoor Activity

荒川 章子

今日は Outdoor Activity に行きました。服装はジーンズに T シャツ、スニーカーなど動きやすく汚れてもよいものを着て行ったほうがいいと思います。乗馬するときに汚れてしまうかもしれません。それからカナダは日本よりも日差しが強いように感じます。なので、日焼け止めはもちろん、サングラスも持って行くことをおすすめします。

リスターからスクールバスに1時間くらい乗って牧場へ着きました。私は乗馬をするのは初めてだったし、父が乗馬をしたときの話を聞いて私もぜひ挑戦してみたいなと思っていました。牧場へ着くとカウボーイハットを被ったおじさんが迎えてくれて、馬車に乗り込んで厩まで向かいました。厩につくとこれまたカウボーイハットを被ったお姉さんたちが迎えてくれました。そして、おおまかに乗馬のしかたをおしえてくれました。乗り方、ストップの仕方、曲がり方、走り方などを1回ほんのさらっと3分ぐらいだけ説明されました。私たちは、「えっ、それだけ？」とか正直思いました。お姉さんはもう完全に馬を乗りこなせるといった感じでした。最初に馬に乗る時点で、もうすでに結構大変でした。乗ってみると、普段より目線が高くなり、それに馬に身を任せているのでかなり不安でした。私は最初のうちは生きている心地がしませんでした。落馬したらどうしようとか思っていました(笑)。みんなが馬に乗り終わると、お姉さんの乗っている馬が先頭をきって歩き出し、私たちの馬もそれに続いて勝手に付いていってくれました。私は広い草原を歩くのかなと思っていましたが、実際は雑木林の道を散歩するといった感じでした。私たちの乗っている馬は途中で何度も道草を食っていました。しかも、乗っている私たちのことをあまり考えて進んではくれないため、木の枝に何度も当りました。そんな感じで30分くらい乗馬したあと、また厩に戻ってきました。ひやひやしたけれども、前からやってみたかった乗馬を体験することができてよかったと思います。

先にカヌーに行っていた成城大学からの留学生とも合流してみんなでランチをとった後、今度はカヌーをしにバスで20分くらいかけて湖へ行きました。3人1組のグループに分かれてカヌーに乗りました。カヌーはその前にもレイクルイーズでしたことがありましたが、その日は結構風が強くて波が立っていたので進みづらかったです。右へ行ったり左へ行ったり、波に逆らって進んだと思ったら波に流されたりと、3人で笑いながら漕いでいました。カヌーが終わると、またスクールバスに乗ってリスターまで帰って解散しました。



Golf

池 優佳里

このカナダ留学では、Golfをやる機会がもうけられていました。Golfといっても本格的なものではなくパターゴルフで実際にコースを回っていきます。

この Golf は1つのコースで5回以内に入れるもので実際にやってみると5回以内に入れるのはとても難しいです。強すぎて、違う方向にボールがいくと林の中に入ってしまうので探すのがとても大変です。コースが数十個あって簡単なコースから、難しいコースまでいろいろな種類のコースで Golf を体験できます。コースは順番がついていて、その順番どおりに進んでいきます。1 番始めは簡単で小さいコースですが徐々に難しく大きなコースになっていきます。Golf がはじめての人でも本格的の Golf でないので気軽に参加できます。むしろこれをきっかけに Golf が好きになるかもしれません。

この Golf 場はカナダならではの自然の中にあってコースまで行くのが少し大変でしたが、自然に囲まれて Golf を楽しむことができました。



Conversation Club

富山 貴旭

カンパセーションクラブはアルバータ州立大学の学生と会話をする時間です。場所はその担当する人で違いますが、主にカフェなどでお茶を飲みながら会話をします。会話と言っても普段日本で話しているような日常会話なので、緊張せずにリラックスして会話が楽しめます。ただ、毎回会話だけというのも飽きてしまうので、いろいろとテーマを決めたりもしていました。例えば、よく私たちの担当になって、一緒に会話をしたマークはそれぞれの質問が書かれたカードを引いてそれに答えるという形式もありました。また、一番楽しかったのが英語の寸劇である。劇の題材は自由で、今回私たちは「桃太郎」を英訳して劇をした。カナダの学生とすごく楽しい時間を過ごせます。



古泉 里沙

Conversation Club は午後の部門でアルバータ大学や OB の人たちと座談する Club です。4 人～5 人のグループを作り、約 1 時間～1 時間半ほど楽しく英語で会話をします。私たちはお昼休みが終わると HUBMALL に集合し行くところを決めました。そして会話をしながら歩き、目的地まで行きました。だいたいいつも決まって Café でした。店に着く

とまずそこで適当にグループを作り、2つに分かれ別々の席に着きます。それからみんな
でドリンクやお菓子を食べながら座談スタートです。

自己紹介、趣味、英語について、文化の違い、ジェンダー、ゲームなど話題はさまざま
なもので、質問は簡単に答えられるものから難しいものまでありました。ただでさえ聞き
取るのも難しいのに、さらに難しい質問までされたときは答えるまでにかなりの時間がか
かってしまい正直泣きそうになりました。でも、みんな自分の言いたいことを理解しようと
努めてくれました。

私は本当に英語が苦手で自分の英語に自信が持てませんでした。しかし、文法がわから
なくて間違っているけど意外と通じたりします。ジェスチャーを使えばより説明しやすいの
かなとも思います。だから間違ってもいいから積極的に発言し意思を伝えることが一番
大切だと思いました。

この留学で得たものは絶対無駄にならない思い出。一生の宝物となりました。

ペイントボール

富山 貴旭

ペイントボールはアメリカで考えられたスポーツです。当たると破裂するペイント弾を
空気銃で発射するもので、日本では殆ど知られていないものですが、アメリカやカナダな
どの北米では比較的メジャーなスポーツです。

私たちの英語の教員であるマット先生が大のペイントボール好きであったので、今回は
カンバセーションクラブの時間を使って実際にゲームをしにいきました。その時には同じ
短期留学をしていた熊本大学と一緒に敵味方分かれてゲームをしました。その日のエドモ
ントンは快晴で暖かく、その上厚い防護服と
ゴーグルを着用するので汗をかきながらのゲ
ームで、ペットボトルのドリンクを何本も消
費してしまいました。

林や斜面などのカナダの広大な地形を利用
したゲームでしたが、すごいのがその土地を
個人で管理しているところです。ここでも日
本とカナダの広さの違いをうかがい知ること
が出来ます。



今回のゲームは三回戦勝負で二勝一敗の結果で我々NUISのチームが勝利しました。ペイ
ントボールはもうきっと二度とすることはしないような気がして、このゲームの記憶は一生
の思い出になります。また、他大学や先生との交流にも大いに役立ったような気がします。

エドモントンについてちょっとしたアドバイス

渡辺 貴人

注意すること

エドモントンは公園、道路、学校など私有地でない場所での飲酒は禁止されていて警察に見つかりと捕まってしまうので注意してください。未成年のあなたは飲んではいけません。

カナダ留学するのは8月と9月上旬ですが、昼間でも半ズボンでは肌寒い日が結構ありました。8月は少し暑いときもありましたけど早朝や夜になると、すごく冷え込みます。

急激な温度の変化があるので、風邪を引きやすいです。基本的に厚着や重ね着が良いと思います。

天気予報の表示は日本℃（セ氏）と違い°F（華氏）が使われているためわかりにくいです。

チップ文化。基本的にレストランで食事する時は、注文額の割から一割五分のチップを払ってください。タクシーやバーテンダーなどにも払ってください。テイクアウトの店ではたいていチップ込みでの値段が請求されるため表示価格よりも少し高く請求されます。

ちなみに

エドモントンではカレー売っていましたが、あと味噌汁や米もありますがあまりおいしくないと思います。インスタントカメラの格安5本パックは日本のディスカウントショップで買ったほうが安いです。エドモントンの少し大きなスーパーマーケットには日本でいう100円ショップのように1\$ショップがあり、生活必需品からおもちゃやお菓子などが安く手に入ります。調理器具なども買えます。

オーロラが見える街。エドモントンでは1週間に一度の確率でオーロラが見えるといえます。と言っても、秒単位で姿を変えて行くので、実際に目にする確率は低いと思います。外を歩く時は常に空を見て歩くのが見逃さないポイントだという事です。

パソコンについて

アルバータ大学にある図書館のパソコンは日本語のIMEパットがダウンロードされているためちゃんと日本語でメールも作成やインターネット接続もできます。ただ文字化けするときがあるので"View"→"Encoding"→"Japanese auto"を選択すれば問題なく見ることが出来ます。

持っていきたいもの

日差しが強いため、サングラス。空気が乾燥しているため、リップクリームやのど飴。

夏とはいえ早朝や夜はひどく冷え込むため、防寒具。防寒具はかさばるため、カナダで購入するというのも賢い選択だと思います。カナダの防寒具はあったかいので重宝します。ただこの場合、防寒具を買うまで寒い思いをすることになるのでせめてジャケットの一枚と重ね着のためのシャツ類を何枚か持っていくことをお勧めします。ちなみに私たちはカナダで自由にショッピングが出来るまで約1週間かかりました。

急なとおり雨も多いので、折り畳み傘。

外国の薬はあまり信用できないし、私たち日本人にはあわないものもあるので、薬。

遅刻厳禁なので、目覚まし時計。などもぜひ持っていくことをお勧めします。

銀行での両替の手順

円をカナダドルにしたいときは、身分証明書と住所（リスターホールやホームステイ先）を提示して両替したい金額を渡す。

バス・電車の乗り方

エドモントンでのバス、電車の乗り方は、\$2.00 で乗車後 90 分以内なら乗り放題（運賃箱にお金を入れるのですが両替機がなくお釣りはもらえないので注意）ですので、バス・電車の行き先や時刻表などを熟知すればたった\$2.00 ではるかかなたの土地まで行けますし、バス・電車で乗り間違えたとしても 90 分バス・電車乗り放題ですのですぐ降りてまた違うバス・電車に乗りなおすことも可能です。1 度慣れてしまえばすごく便利です。ちなみに、ルート案内 ETS Ride Guide というルートマップを無料で手に入れるには観光案内所、バス車中、各種インフォメーションセンターなどで手に入ります。インターネットにも時刻表・ルート別時刻表が無料で手に入ります。また、バスの一ヶ月定期券があり \$55.00 ほどかかるのですがぜひ購入することをお勧めします。なぜなら定期券がないとバス・電車に 1 回乗るのに\$2.00。戻ってくるのにまた\$2.00。よって一日\$4.00。これを約 30 日繰り返すと合計\$120.00 となってしまいますし、アルバータ大学内は広いしバスは色々なところにたくさん走っているの定期券があれば身近なところでも軽い気持ちで乗れるしスーパーマーケットなど生活する上で必要な店は歩いて行くとすごく遠いし帰りは荷物もあるのでめっちゃくちゃ時間がかかりますのでバスがあれば楽にスーパーマーケットなどに行けて便利なのです。定期券を買うときは少し高いと思うかもしれませんが値段以上の価値は必ずあるのでぜひ買うことをお勧めします。ただ、注意しなくてはならないことは、エドモントんに着いたらできるだけすぐに定期券を購入しなければならないということです。定期券は買ってから 1 ヶ月使い放題ではなく、月が始まってから（8 月 1 日・9 月 1 日など）その月が終わるまでが有効期限で、月の半分（目安…8 月 15 日・9 月 15 日など）を過ぎると定期券を購入できなくなるので注意してください。バス回数券というものもあります、10 枚綴りで\$15。通常運賃 10 回分より\$5 お得です。

エドモントンで食べられる和食・寿司の店！

- 1.京都 無難な日本食レストラン日本食が恋しくなったらとりあえずココ！！
- 2.みかど（和食）入ったことない！来年の君たちのレポートで頼む！！
- 3.横綱(和食)寮の近くにあるが縁がなく入れなかった場所！カナダ留学の唯一の後悔。悔やまれる…。
- 4.江戸 Edo Japan カナダの日本食レストランチェーン店！おいしくないです。すごくおいしくないです。お試しあれ。

カナダの食文化について

朝：シリアル、又はパンです。ベーグル、ミートパティも人気があります。

昼：サンドイッチ他にも、ピザ、パスタ、チャイニーズ、タコスなどなど、いろいろ食べます。

夜：ハンバーグ、バーベキュー、グリル、ピザ、パスタ類などが多いです。複雑なソース類を使った肉料理、魚料理なども好んで食べます。最近は日本食もかなり人気があって、好んで食べる人も多いです。

バーベキューは肉を焼いたり、ハンバーグ・ソーセージを焼いたり、鮭を焼いたのもポピュラーです。ホットドッグもよく出ます。フィッシュ&フライも人気です。軽食では、マカロニチーズ、ピザなんかは好きな人が多いですね。あと、ローストチキン、ローストターキーなども伝統食っぽい感じがします。

住所の読み方(調べる)

基本的に日本の逆順で住所が書かれています。日本語で書いた場合…〇〇番地〇〇町〇〇市といった感じです。ちなみに英語で書くとこんな感じです。

Yorkville Avenue, Suite 4	Toronto, Ontario	M4W 1L1, CANADA
番地・通り名・部屋番号・建物 (*1)	市 州 (*2)	郵便番号 (*3) 国 (*4)

郵便番号 (Postal Code) カナダの郵便番号は、「M4W 1L1」のように 6 桁のアルファベットと数字の組み合わせになっています。

カナダでよく使う英単語を集めてみました。

Hi 一日中使える挨拶です。「おっす」みたいな感じですが、目上の人にも使える挨拶です。

他、朝昼晩は順に **Good Morning, Good Afternoon, Good Evening**

How are you?, How are you doing?, How is it going?

全て、「元気ですか？」の意味。

答え方は、**I'm fine (thank you), Fine (thank you), Pretty good (thanks.), Not bad (thanks.), I'm doing alright.** などです。

What's new? 「最近何かいい事あった？」**"How are you"**などの代用に使われます。

答え方は **Not much, Nothing** など、他に何かいい事が有ればそれを伝えてもいいです。

See you later, See you around 「また会いましょう」の意味。「またね」、「またな」といった感じ。他、**"See you tomorrow"**などと状況により言い方を変えても良い。

"Ya"は**"You"**の事で正しい英語ではありません

答え方は特に無く、同じ言葉を繰り返すか、**"Yeah", "Yap", "Yes"**と返す人も居ます。

Have a nice day, Have a good evening, Have a good afternoon

順に、「良い日をお過ごしください」「良い晩をお過ごしください」「良いお昼をお過ごしください」の意味。日本語に訳すと変ですが、別れ際に良く使われる表現。

答え方は **Thank you, You too** など。この 2 つをくっつけて、**"Thank you, you too!"**とも言えます。

感謝の表現 **Thank you (very much), Thanks (a lot)** 「ありがとう」の意味です。

カッコ内の表現は足すと丁寧。他、場合によっては**"I appreciate ~"**という表現を使う場合もあります。

またある特定の事に関して謝罪したい場合は**"for"**をつけて下さい。(例文参照) 例文：**Thanks for your help.**(手伝ってくれてありがとう)。

答え方は **You are welcome.**(どういたしまして)**Not at all.**(どうってことないですよ) **My pleasure, Sure, No problem, Yeah, Any time**(いつでもどうぞ)が代表的。

謝り方は、**I'm very sorry, I'm sorry, Sorry, It's my apology, I apologize.**